

子猫ちゃんのお日傘のお話

武田雪夫

1

「さあ、これは、子猫ちゃんのお日傘といふお話ですよ。
まあまあ、何て、よいお天気でせう。」

子猫ちゃんは、お母さんにお聞きして見ました。

「これから、お散歩に行つても、よろしいでせう?」

「ええ、ええ、行つていらつしやいな。」

「それでは、きれいなお日傘を、さして行つても、よろしいでせう?」

「ええ、ええ、さしていらつしやいな。」

子猫ちゃんは、うれしくてうれしくて、たまりません。すぐに、きれいなお日傘をさして、お家を出かけました。そして子猫ちゃんは、ちよこちよこ歩いて行きました。

ところが子猫ちゃんは、急に、びつくりして、

「あらッー！」と、そこへ立止つてしまひました。

だつて、まだ、きこへ行くのか、行先が、きめてなかつたのですもの。

ほんのたゞ、きこへ行きませう。

さうさう、あの仲よしの家鴨あひひさんのところへ行きませう。

子猫ちゃんは、やつこ行先がきまつたので、元氣よく、ちよこちよこ歩いて行きました。

するさ、むかふから、鳩ほつほさんの子供が二羽、バタバタと飛んで來ました。一羽の鳩ほつほさんが言ひました。

「あれ、きれいですね。きつさ、大きなお花ですよ。」

するさ、もう一羽の鳩ほつほさんが言ひました。

「ちがひますよ。お花ではありませんよ。お花が歩いて來るものですか。」

するさ、また、はじめの鳩が言ひました。

「ほんのたゞさうね。あれあれ、まつ黒なお尻尾しつぽが見えますよ。」

「それでは、きつさ、子猫ちゃんですよ。」

「さあ、早く行つて見ませう。」

さう言つて、二羽の鳩さんは、いそいでバタバタと飛んで來て、

「子猫ちゃん！」と言ひながら、いきなり子猫ちゃんのお日傘の上に、こまりました。

子猫ちゃんは、びつくりして、お日傘を道へ投げ出してしまいました。まあまあ、きれいなお日傘に、土がついて、少したなくなりましたよ。

子猫ちゃんは、今にも泣き出しさうになりました。けれども、鳩さんが、一生けんめいに、

「ごめんなさい、子猫ちゃん。」「子猫ちゃん、ごめんなさいね。」と、いくつも幾度も、あやまりましたので、子猫さんは、やつと泣くのを我慢しました。

さあ、それでは、早く行きませう。家鴨あひよさんのところへ、いそいで行きませう。この間生れたばかりの家

鴨の赤ちゃんは、みんなに大きくなつたでせう。

子猫ちゃんは、ごんごん歩いて行きましたよ。

2

家鴨さんのお家は、坂の下のお池のそばにありました。子猫ちゃんは、ころばないやうに上手に坂を下りて行きました。

するど、そこへ、いきなり横道から、

「ワンワン、ワンワン、ワンワン」と、子犬さんが飛び出して来ました。そして、子猫さんにちやれつきました。

子猫ちゃんは、びつくりして、

「いやよ、いやよ。あら、いやよ。」と言つて、にげまはりました。

そして、坂のまん中で、すべつてころんでしまひました。あゝ、きれいなお日傘が又少しよごれました。

それでも、子猫ちゃんは、すぐに起きて、急いで家鴨さんのお家の方へ、坂を下りて行きました。

そら、家鴨さんのお家のお玄關へ來ましたよ。子猫さんは、かはいゝ聲で、

「今日は、ごめん下さい。」と言ひました。

でも、誰もお返じをしません。それでは、もう一き呼んで見ませう。

「今日は、ごめん下さい。」でも、まだお返じはありません。

おや、お庭の方で、ガアガアミ、大ぜいさわいでゐるやうです。きつミ、家鴨さんの子供たちです。さあ、

早く行つて見ませう。

子猫ちゃんが行つて見ますミ、それは、やつぱり家鴨さんの子供たちでした。お庭のお池の中で、大さわ

ぎをして遊んでゐました。あゝ、あひるの小母さんもゐます。子供のあひるさんたちも、みんなゐます。ま

あまあ、この間生れた赤ちゃんのあひるさんの大きくなりましたこと。

子猫さんは、大きなお聲で呼びました。

「小母ちゃん、今日は。」

さうするミ、子供のあひるさんたちは、小母さんミ一しよに、こちらを見ました。そして、子猫さんを見

つけるミ、大よろこびで、「わアい、子猫ちゃんだ、子猫ちゃんだ。子猫ちゃんが来たよう」。と言ひながら、みんな、ガアガア、ガアガア岸へかけ上つて來ました。

岸のところで、あんまり喜んで、あひるさんの子供たちが、バタバタしたので、子猫ちゃんの着物にも日傘にも、きたない泥が一めんにはねかゝつて、まあまあ、ほんごにきたなくなつてしまひました。子猫さんは、びつくりして、泣き出してしまひました。

するミ、あひるの小母さんは、すぐに子猫ちゃんを裸はだかにしました。そして、お風邪をひかないやうに、子猫ちゃんに、自分の子供の古いお着物を着せました。そして、子猫ちゃんのごれたお日傘ミお着物を、いそいでおきなりの鶴さんのところへ持つて行きました。鶴さんは、お洗濯屋さんをしてゐるのです。あひるの小母さんは、

「鶴さん、鶴さん、このお日傘ミお着物を、大いそぎでお洗濯して下さいな。」とたのみました。

鶴さんは、長い長いお首をふつて、

「はい、はい、承知いたしました。」と言ひました。そして、すぐに、お石鹸をつけてジャブジャブ、ジャブジャブミお洗濯をはじめました。お日傘は、ブラッシでお上手に洗ひました。

まあ、お日傘もお着物も、ほんごにきれいになりました。お天氣がよいので、干しておくミ、お日傘もお着物も、すぐにかわきました。

子猫ちゃんは、あひるさんの子供ミ一しよに仲よく遊んでゐました。するこ、誰か、裏口の方で、

「こんちや今日は、今日は。」と呼んでゐます。

みんなで行つて見るこ、それは、鶴の洗濯屋さんでありました。鶴さんは、

「毎度ありがとうございます。お洗濯物が出来ました。」と言つて、紙に包んだものを持つて来ました。開けて見るこ、中から出て来たのは、綺麗にお洗濯した子猫ちゃんのお日傘とお着物でした。

お猫さんは、ほんきにうれしくなりました。いそいで家鴨の小母さんに、お手々をきれいに洗つてもらふこ、きれいになつたお着物に着かへました。そして、あひるの小母さんや家鴨さんの子供たちに、

「さよなら、それでは、また遊びに来ますわ。」と言ひました。

「それでは、また、いらつしやいね。」

家鴨さんの子供たちは、さう言つて、みんなでお玄關まで送つて来ました。するこ、おきなりの洗濯屋さんのお店から、鶴さんが長い長いお首を出して、

「ひょうなら。」と言ひました。

子猫ちゃんは、みんなに、

「さよなら、さうもありがとう。」と言つて、また、きれいなお日傘をさして、ちよこちよこお家へ歸つて行きました。

はい、これで、子猫ちゃんのお日傘のお話は、おしまひです。